

地域医療における開業医の役割 —神奈川県における臨床研究活動の総括と今後—

第28回医療研究集会実行委員長

森 壽生氏

■プロフィール■

1948（昭和23）年 香川県善通寺市生まれ

1973（昭和43）年 日本医科大学卒業

日本内科学会認定内科医、認定産業医

2008（平成20）年 神奈川県内科学会学術有功賞受賞

著書：『漢方の目で見える花粉症の治療（第三版）』『落ちこぼれない心電図テキスト』

『日常診療に役立つ高血圧治療のエビデンス』



地域医療を対象とした活動は各保険医協会・保険医会で取り組まれていると思うが、保団連でも重要活動と認識している。歯科でも同様のことがあると推察するが、医科では細分化され、専門化された医学の弊害の対極に家庭医学、総合医学という統合された医学が提唱され、医科大学や医学部にそのような総合内科ともいべき科目が設置されてきた。

保団連でも、10数年前の医療研究集会でそのようなテーマで開催したことがあった。地域医療はまさに総合医学・家庭医学の実践の場であろう。地域医療がうまく回るためには、歯科は勿論、各科の連携が必要である。各科の連携とともに医療レベルの問題もある。私たちは常に医学の研鑽を通して、患者さんへの治療行為として還元しなければならない。保険医運動の根幹は医学の研鑽にあるといっても過言ではない。

神奈川県保険医協会は1963（昭和38）年に設立されたが、当時の申し合わせに3項目があった。新聞を毎月発行すること。会員を増加させること。毎月研究会を開催すること。この3本柱が当協会のバック・ボーンであり、現在の新聞部、組織部、研究部に発展してきた。研究部を最重要活動の一つとして捉えたのは、良質の医療は生涯の勉強から得られ、その質の高い医療が保険医運動を支えると先人たちが本質をみていたからだ。そのような背景があり、当研究部は開業医から発信する研究成果を出そうと試みてきた。

また、その一環として治験にとりくみ、開業医の団体としてはわが国で2番目の治験審査委員会を設置した。その目的は治験に取り組む能力のある医療機関を発掘し、研究成果を出すことで、神奈川県の開業医の力量を市民の方々に知ってもらいたかったためである。

医学研究では当初は疫学にポイントを絞り、2002年の医療研究集会で調査した血圧についての共同調査から始まり、糖尿病についての共同調査研究、タバコ病についての県内調査と発展してきた。血圧調査研究については東京新聞で紹介されたりメディアでも注目された。

Hypertension Researchに2本の論文が掲載され、そのうちの1つは「高血圧治療ガイドライン2009」に引用された。

一方、2005年からは高血圧症を対象疾患として介入研究を開始した。すでに1つの研究は終了し、Hypertension Researchに掲載された。現在2本目の研究も終了し、2013年の高血圧学会で発表予定である。さらに現在進行している研究が1本、近日中に取り組む高血圧研究とPAD（閉塞性動脈硬化症）を対象とした研究が2本ある。

このような臨床研究を通して、神奈川県の開業医のレベル向上と医療機関の質の高さを市民に知っていただく道筋を開いた。機会をみては市民公開講座などで、私たちの活動を紹介し、市民の皆様の共感を得たいと念じている。